様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ８ 月 ２７ 日現在

機関番号：１６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２１７６

研究課題名（和文）古代ギリシャのフリーズ浮彫の研究ー立体模型を活用した空間配置と宗教観の考察ー

研究課題名（英文）A Study of Greek Relief Sculpture using a 3-D model: with special consideration of space and the religious background

研究代表者
中村　るい（Nakamura, Rui）

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授

研究者番号：５０５３５２７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、パルテノン神殿のフリーズ彫刻の空間表現と宗教観について、神々の立体（3-D）模型を活用して考察を行ったものである。空間を視覚化するため、神々の立体模型に加えて、高精度の想定俯瞰図を独自に制作した。2016年3月、英国ケンブリッジ大学の古典考古学博物館にて研究展示を行い、2017年9月、高知市の四国霊場31番札所、五台山竹林寺にて、学術シンポジウム「ギリシャ彫刻を考える―パルテノンの神々を中心に―」を開催した。美術史研究者、美術解剖学研究者、文学研究者の研究発表、及び、研究展示を行った。分野横断的な議論の場を設け、研究成果を公開したことは、今後のフリーズ研究への重要な貢献と考えている。

研究成果の概要（英文）：This study concerns the special positioning of the Olympian gods at the Parthenon Frieze using a 3-D model. In addition to the 3-D model, a speculative bird's eye view of the Parthenon Frieze was created in order to visualize the space on the frieze. In March 2016, the 3-D model of the Olympian gods was put on temporary exhibit at the Museum of Classical Archaeology at Cambridge University. Also we organized a symposium in September 2017 at the Chikurin-ji (Bamboo Forest Temple) at Kochi-City, titled "Rethinking Greek Sculpture: On the Olympian gods of the Parthenon Frieze." The speakers included specialists in art history, artistic anatomy, and Greek literature. The Symposium was open to the general public. The interdisciplinary discussion contributed to the further study of the Greek Relief Sculpture of the Parthenon Frieze.

研究分野：ギリシャ美術史

キーワード：ギリシャ彫刻　パルテノン神殿　立体復元

１．研究開始当初の背景

ギリシャ建築の古典、パルテノン神殿の浮彫彫刻について、立体模型を使った研究を2009 年より開始し、ギリシャ・クラシック期に空間表現が大きく進展したことを、身体の描写を通して検証する試みを継続している。空間表現をより精密に明らかにするために、模型と併用して高精度の想定俯瞰図の制作、並びに、同時代の絵画（陶器画など）との比較検討、さらに分野横断的な議論が不可欠であることが明瞭であり、本研究で実施を提案した。

２．研究の目的

パルテノン・レリーフ上の神々には 2 つの役割がある。それは、A)「奉納の儀礼」への臨席、B)市民の行列を迎えること、の２点で、この条件をみたす空間配置が「神々の円弧上の配置」と考える。立体模並びに想定俯瞰図の活用により、神々の群像の配置の問題、及び、神と人との関係を検討することが可能であると考えた。

とくに、ギリシャ美術史研究において常に言及される「神人同形主義」（神の姿を人間の理想の姿に表現すること）の問題を、神々の身体表現及び、空間配置の観点から再検討する。神々がアルカイック期の象徴的な存在から、クラシック期へのリアルな存在へと変貌した、パルテノン時代の神性の在り方、換言すると、宗教観を、空間意識と関連させて、再検討することが本研究の目的である。

３．研究の方法

（１）これまで、部分的に作成していた想定俯瞰図（(2012～2013 年度の挑戦的萌芽研究「ギリシャ・クラシック期の身体表現の美術解剖学的考察」において、想定俯瞰図の第 1 段階を制作）を、オリュンポスの 12 神が登場する全ての空間で作成し、細部表現も加えた。

（２）立体模型及び、レリーフ上のオリュンポスの 12 神の想俯瞰図を英国ケンブリッジ大学、古典考古学博物館にて展示し（2016 年 3～5 月)、美術館の専門委員と討論した。

（３）神人同形主義の再検討として、2017 年に高知大学主催の学術シンポジウム「ギリシャ彫刻を考える―パルテノンの神々を中心に―」を実施し、美術史学、美術解剖学、ギリシャ文学の各専門家と、分野横断的な議論の場を設け、討論を行った。

（４）上記（3）のシンポジウムに先立ち、2017 年 4 月、米国プリンストン大学で開催された国際シンポジウム「ベルリンの画家とその世界」に参加し、シンポジウムの運営についての視察を行った。

渡米時に、エール大学美術館学芸員、ハーバード大学美術館学芸員、ボストン美術館学芸員と学術交流を行い、専門的知識の供与を受けた。また、スレーター記念美術館（コネティカット州ノルヴィッチ）の石膏ギャラリーの視察を行った。

（５）上シンポジウムの企画・準備段階で、ギリシャ彫刻をテーマとした学術シンポジウム「石膏像のこれから：今日の美術における模写・模倣　再考」（於新潟大学　2015 年 4 月 11 日）に参加、ならびに企画展「ギリシャ彫刻 NEO」（於新潟大学旭町学術資料展示館）に学術協力した。シンポジウムの運営及び、展示方法を検討する上で有意義であった。

４．研究成果

（１）パルテノン・レリーフ上のオリュンポスの 12 神が登場するすべての空間で想定俯瞰図を作成し、神々の群像配置を検討した。2012～2013 年度の挑戦的萌芽研究「ギリシャ・クラシック期の身体表現の美術解剖学的考察」において着手した想定俯瞰図に、本研究で細部を加え、精度を高めた。身体の厚み

や重なり合いを視覚化し、神々の円弧配置の妥当性が、具体的に検証された。

本想定俯瞰図は、今後英文での発表を検討中である。

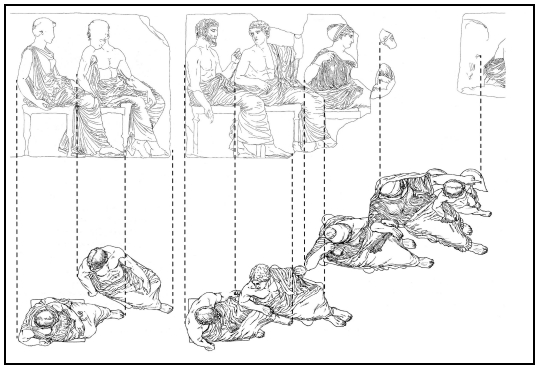

図１　想定俯瞰図（北側の６神+１神）
上段:パルテノン・フリーズの描き起こし図
下段：想定俯瞰図
[一見、横並びにみえる神々の空間配置は、身体の厚みや姿勢、及び重複を考慮すると、ある程度の奥行と角度を推定可能である。]

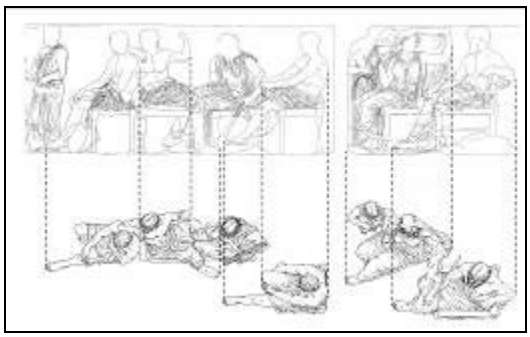

図２　想定俯瞰図（南側の６神+１神）
上段:パルテノン・フリーズの描き起こし図
下段：想定俯瞰図
[とくに神々の身体の重複（例えば神ディオニュソスと女神デメテル）に関して、従来、図像の観点から解釈が行われてきた。本研究では、現場の彫刻家の裁量、換言すると、制作者の意図が反映された可能性を、仮説として提案する。制作者の視点は、これまで美術史研究では重視されていない観点であり、今後の美術史研究に新たな視点を提案できると考える。]

（２）ケンブリッジ大学、古典考古学博物館にて立体模型と想定俯瞰図を展示し、美術館学芸員と討論を行った。

図３　ケンブリッジ大学、古典考古学博物館の石膏ギャラリー。
[中央奥が高知大学の研究模型の展示ケース]

図４　高知大学の研究模型の展示

この研究展示について、地元の新聞『ケンブリッジ・ニュース』（2016 年 4 月 13 日付）にて紹介された。

[概要：パルテノン・プロジェクト・ジャパンの研究模型の制作と研究の経緯及び、フリーズの立体化の意義などが解説されている]

（３）学術シンポジウム「ギリシャ彫刻を考える―パルテノンの神々を中心に―」を開催し、ギリシャ美術史研究者（筑波大学）、美術解剖学研究者（東京藝術大学）、ギリシャ文学研究者（和歌山県立医科大学）を招聘し、分野横断的な議論の場を設けた。また研究模型の展示を行い、研究成果を広く一般に公開した。

研究展示において、高知大学の立体模型と共に竹林寺所蔵のガンダーラ仏も展示され、西洋と東洋の宗教芸術の比較検討を行った。

シンポジウム概要
開催日：2017 年 9 月 16 日
開催場所：四国霊場 31 番札所、五台山竹林寺書院
参加者総数：40 名

シンポジウムパネリスト
長田年弘（筑波大学
布施英利（東京藝術大学）
西村賀子（和歌山県立医科大学）
海老塚和秀（竹林寺住職）

（４）学術協力
・新潟大学　研究展示「ギリシャ彫刻 NEO」（於新潟大学旭町学術資料展示館）
（2015 年 2 月 28 日～5 月 10 日）

・群馬県立女子大学　研究展示「石膏像を見に行こう」（同大ギャラリー）（2016 年 10 月 17～28 日）

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

・中村るい「ギリシャ・クラシック期の＜神人同形主義＞に関する考察―自然主義と超越性―」『古代ギリシア・ローマ美術史における「祈り」の図像に関する社会学的考察』、平成 24-26 年度科学研究費、挑戦的萌芽研究、研究成果報告書、研究代表：長田年弘、2015 年 3 月刊行、pp.60-62（査読無）.

〔学会発表〕（計　件）

〔図書〕（計　2 件）

１．中村るい『ギリシャ美術史入門』（三元社 2017 年 11 月）（単著）（224 頁）

２．Rui Nakamura, “Recreation in 3-D of the Gods on the Parthenon Frieze: Body and Space of the Invisibles” in *The Parthenon Frieze. The Ritual Communication between the Goddess and the Polis, Parthenon Project Japan 2011-2014*, edited by Toshihiro Osada, Phoibos Verlag, Vienna, 2016（共著）（175 頁）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
中村　るい（Rui Nakamura）
高知大学　教育学部　准教授
研究者番号：50535276

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)